

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	乳癌手術における検体処理時間が HER2 発現に及ぼす影響
	研究目的	近年、組織検体から得られる情報は、診断・治療の決定のために用いられる各種検査などのために日常臨床にも導入されて、検体の品質管理は重要性を増しています。乳癌手術患者を対象とした臨床研究で得られたデータから、手術検体の血流停止から摘出までの時間（Warm ischemia time; WIT）は、ER, PgR, Ki67 の発現には影響しないものの、HER2 の発現に影響を及ぼす可能性が示唆されました。こうした事象が実際に起こりうるものなのかに関して、乳癌細胞株やマウスなどを用いた基礎研究の観点から証明することを目的とします。
	研究対象者	2018 年 5 月～2019 年 4 月に神奈川県立がんセンターにおいて、全身麻酔下で初回の乳癌手術を受けられた方。
	研究期間	西 暦 2021 年 8 月 13 日 ～ 西 暦 2023 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input checked="" type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	乳腺内分泌外科 松原由佳
試料・情報を 利用する者の 範囲	当センターで の実施診療科 /部局等	乳腺内分泌外科、病理診断科、臨床研究所
	共同研究の場 合、共同研究 機関および各 施設での研究 責任者	なし